

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200123		
法人名	特定非営利活動法人 CSOおおいた		
事業所名	地域福祉支援センター フェリス千歳		
所在地	大分県豊後大野市千歳町前田1160番地		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4471200123-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 巻番館 1F		
訪問調査日	平成30年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ全員が、利用者様の尊厳のある生活の支援を心掛けており、日々の観察を通して個々の変化に敏感に対応できるよう、看護体制も充実している。また、毎日の体操やレクリエーションに力を入れ、身体機能維持に努めており、利用者様の気分転換を図るため、月に一度外出介助(お花見ドライブ等)を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みどり豊かな環境に立つホームは、有料老人ホームやデイサービス等の複合施設の一つとして、利用者への質の高いサービスの提供をモットーに日々業務にあたっています。開所して12年になり、昔ながらの付き合いが色濃く残る地域の中でこのホームが、利用者のみならず、地域住民の活性化に一役を担うよう、年4回「フェリス通信」を発行し、地域と事業所との関係及び基盤作りを積極的に発信し続けています。利用者は自分のできることにつとめ、高齢期にあっても気遣いの気持ち、笑顔ある生活はグループホーム本来の家庭的なぬくもりのある生活ぶりであり、職員の個別ケアや活動の充実を目標としたチームケアの成果です。協力医療機関や隣接福祉施設等の活用は健康管理とともに、委員活動等職員の質の向上、家族の安心感へと反映されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所の見やすい所に掲示し、毎月のスタッフ会議には、全職員で理念の昌和をし、現場での実践に繋げている。	5項目の基本理念を継続する中で、職員の入れ替わりや利用者の重度化という現状の中、利用者を中心としてホームとしての基本に立ち戻り目標を掲げています。毎月の会議で議題にし意識の向上を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会費を納入している。運営推進会議で地域の情報を頂き、参加できることには参加している。また、避難訓練の際には、地域の消防団に参加して頂き、避難介助を手伝っていただくと同時に施設内部を把握して頂いている。	理念の1つに「地域との交流」を掲げ、自治会に加入、地域行事に参加し、施設の「祭り」等の行事に地域住民を招待し交流を深めています。年4回、施設新聞を配布し、避難訓練には消防団の協力等、地域との関係構築に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一年に4回施設新聞を作成し、地域の方々へ配布し、施設での生活や活動、また認知症の理解や支援の方法を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者による意見を参考にし、取り入れられる事は取り入れ、改善すべきところは改善し、全職員に周知徹底を図っている。	各分野のメンバーで構成され、2ヶ月毎に開催されています。利用者の現状、サービスの実際、取り組み等を報告し、意見交換後、委員からそれぞれの立場での意見や質疑応答があり、施設の資質向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、意見交換を行っている。また、必要に応じて市役所に出向いたり、電話で意見を頂いている。	運営に関する必要事項や、情報はメールでやりとりしていますが、管理者は市を訪問し、担当者や直接会っての情報交換を心掛けています。運営推進会議の参加や、その会議録は市の職員間で回覧し意見を頂く等協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、身体拘束委員を中心に、定期的な会議を開き全職員の意識を高めるよう努めている。	身体拘束廃止、虐待防止において職員の理解や認識を更に深めるために、内・外部研修に参加し、会議の中で不適切な言葉掛けや行動の抑制等がないか検討、利用者の自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、それを苑内研修で報告した上で、職員間で話し合い、確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、研修資料を回覧し、職員に学習の機会を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、事業所の見学を行って頂き、ご本人やご家族の理解を得たうえで契約を行っている。また、改定等ある時は、家族会を開いたり、文書を出し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行い、気軽に意見を出して頂けるようにしている。また、利用者様やご家族と常にコミュニケーションを図り、関係づくりを行っている。	毎月の利用料を持参払いとし、面会の機会を増やしコミュニケーションに努め、意見や要望等を収集しています。家族会も行事の時に開催し、利用者とともに楽しむ姿や、利用者の近況報告を行い家族との交流を深めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、スタッフ会議、朝礼等で意見交換を行っている。また、起案書により積極的な意見を取り入れている。	年2回の自己評価の後個人面談を行い、意見や提案を聞くとともに、職員間の運営委員会で就業状況や利用者の対応方法等を提案、検討し積極的に意見を取り入れています。希望休や子育て中の勤務時間の優遇等により働きやすい環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規則を基に就業環境の整備に努め、働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部、内部研修に参加し質の向上に努めている。また、個々のスキルアップを図る為の研修も積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関の研修会に積極的に参加をし、随時情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時にスタッフ間で意見交換を行い、安心して生活ができる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご家族の思いを傾聴し、ご家族が安心して任せられるような関係づくりに努めている。また、面会時にご家族とのコミュニケーションを図り、遠慮なく要望が言えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人様のニーズの把握を行い、必要であれば他のサービス提供機関とも連携して対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様を、人生の先輩との認識に立ち、家族の一員だという思いで介護に携わるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、本人様の状況報告を文書で送付したり、時には電話連絡をしながら、連携を図っている。必要であれば、外出や病院受診に協力して頂けるような関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご家族との連携を図り、帰宅や近隣への訪問、施設内での面会が自由に行えるよう支援している。	利用者にとって昔から馴染んだ生活習慣や行事ができる環境を整え、可能な限り支援しています。家族の協力を得て数名の利用者の知人・友人が面会に訪れたり、デイサービス利用の近所の知人との交流を楽しみにしている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、その時に応じた席替えや、職員が間を取り持つ工夫をして、利用者様が安心して生活を送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて相談援助を行い、円滑にサービスが移行できるように対応している。また、ご家族から相談を受けた際は快く相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や、介助の場面で、意向の把握に努め、意思表示が困難な利用者様に対しては、本人の立場に立ち、ご家族様の意向も踏まえたと把握に努めている。	日々接する中で、暮らし方の意向をひろい出し、家族の面会時に意見を聞き、変更の必要があればケア会議で話し合いプランに繋がっています。職員も関わりの中で、小さなことでも見逃さず思いの把握を常に意識し支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様や担当介護支援専門員等により、ご本人様の生活歴等を聞き取りと同時に情報提供書を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェックで心身の状態の把握に努めている。また、個々の生活リズムを大切にしながら、現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成前に、ご家族の意向や本人様の希望を把握するとともに、月に一度の会議を持ち、プランについての意見交換や、本人様の状態把握に努め、介護計画を作成している。	利用者・家族の意向、担当職員や医師等関係者の意見を活かしたケアプランが作成されています。独自の「ケアプラン実施記録帳」にて毎日確認し、現状の把握と職員の情報の共有、プランの見直しへと繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護記録、ケアプランチェック表により、職員全員が情報を共有できるように努め、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況に応じて、新たなニーズにも応えられるよう、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団の方に避難訓練に参加して頂き、施設内を把握して頂いたり、地域の行事に参加し、季節を感じて頂き、豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関により、月二回の訪問診療を受けている。また、訪問診療を行っていない医療機関については、ご家族が受診対応を行っているが、できない時は受診介助を行っている。	健康診断は年に2回利用者の病状に合わせて行っています。月2回の訪問診療を受けています。専門医への受診は、基本 家族が行っていますが家族からの連絡により臨機応変に対応しています。診察結果は看護師から家族や職員へ申し送られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護職員が連携を図り、利用者様の異常にいち早く対応し、医療機関へ報告するとともに受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、医療機関との連携を図り、入院時は、情報提供を行うとともに、電話や訪問にて入院中の利用者様の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り指針とマニュアルを作成し、主治医とご家族と十分な話し合いを行うとともに、万が一に備えて定期的に意思確認書を頂いている。	重度化に向けての指針やマニュアルを早い段階から作成し、定期的に内容の確認を行い、家族や利用者本人の思いに沿ったケアが提供できるようチームで取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市の消防団に来て頂き、救急救命講習会を開き、緊急時のデモンストレーションの研修会を行っている。また、緊急連絡網や緊急対応マニュアルを作成し、全職員に徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災非常時対応マニュアルを整備し、年二回の消防防災訓練を行っている。災害対応マニュアル、緊急連絡網を整備し、防災委員会を中心に徹底を図っている。	防災非常時対応マニュアルを年2回の防災訓練の後、必ず見直し評価を行い、次回の防災訓練に役立たせています。防災委員や近隣の方々、消防署等の連携も十分取られており災害対策の取り組みを構築されています。	災害に向けて避難訓練(防災委員会を中心とし夜間想定等の訓練)の取り組みを職員や近隣の方・消防署の協力を得ながら実施しています。またPDCAサイクルにおいて次回に向けた積極的な取り組み方に今後期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の性格に合わせた声掛けや対応を心掛け、介助に際しても無理強いをしないよう工夫をしている。	利用者をお呼びする際、必ず苗字で呼び同姓同名の方はフルネームで呼ぶことを職員間で徹底されています。尊厳についての研修会を行い職員全員で、利用者のその人らしさを大切に支援に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、その方らしく生活を送れるよう、可能な限り自己決定を重視した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重しつつ、その時の体調に合わせた対応や、個々のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の身だしなみには、常に気にかけて配慮している。散髪は二ヶ月に一度のサービスも行っているが、ご家族や本人様の希望に沿った対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備として、野菜の皮むきやゴボウのささがき作り、また、団子汁の団子こね等職員と一緒に頑張って頂きながら、人生の先輩としての意見も伺っている。	利用者が全員で和気あいあいと食事を摂る事を大切にしており、胃瘻の方も食堂で皆さんが楽しく食事をする雰囲気味わい、その後居室にて食事を摂られています。一人ひとりのお茶碗を変える事によりカロリー計算をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分摂取量の確認を毎食ごとに行い、水分摂取量の少ない方には、適宜援助している。また、食事摂取量の少ない方には、栄養補助食品を処方して頂き、適宜援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、自分で出来るところは行って頂き、義歯の磨き上げをさせて頂くとともに、食物残渣が無い確認させて頂いている。また、口腔ケアの研修会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使用し、利用者の排泄パターンを把握するとともに、定期的なトイレ誘導を行い、できるだけ失禁の無いよう努めながら、自立支援を図っている。	利用者の排泄パターンを把握しタイミングを図り声掛けを行い、トイレ誘導や失敗しないよう排泄の自立に向けての取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を提供したり、体操やレクリエーションで身体を動かして頂き、自然排便を促しているが、必要な方には医師より処方されたお薬で定期的に排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴日は決まっているが、汚染があった時や、受診等で入浴出来ない場合は、日を改めて入浴して頂く等の工夫を行っている。	基本は週2回の入浴支援ですが、利用者に合わせて臨機応変に対応されています。ゆっくり寛げるよう入浴剤等を使用しています。着脱室は、利用者の安全や職員の使いやすさを工夫した環境作りに取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活パターンを受け入れ、それぞれに合った休息の仕方に応じた支援を行い、安心できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携を図り、看護師が服薬管理を行っている。ケース記録に薬情をファイルし、いつでも確認できるようにしている。また、薬が変更になった際は、申し送りで職員に周知徹底を図り、利用者様の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の興味のある事や、洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、またお花のお世話など生活歴を活かした役割等積極的に参加して頂き、楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1ヶ月に一度は、季節のお花見ドライブに外出介助を行ったり、ご希望があればご家族の協力で外出や外泊等もして頂いている。また、地域のお祭りなどの情報も頂き、参加の機会を設けている。	季節ごと、月ごとの外出支援への取り組みを積極的に行っています。運営推進会議での情報をもとに地域のお祭りに参加しています。施設の敷地が広いため天気の良い日には周辺が散歩コースとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に関しては、ご家族と相談の上、ご自分で管理して頂き、必要な時に遣って頂いている。また、トラブルにならないよう少額にして頂き、全職員が把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があった時は固定電話を使用して頂き、自由に連絡を取って頂いている。また、郵便については居室へお持ちして、直接本人様へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が常に清潔であるよう、全職員が配慮をし、空気清浄器を設置したり室温や湿度が適度であるよう、常にチェックし、調整を行っている。また、季節のお花を飾ったり、壁紙で季節感のある共有空間を提供している。	施設全体が白色を基調とした室内で、清潔感を醸し出しています。共用空間には個々の作品や季節ごとの壁飾りに、工夫を凝らしています。廊下や窓も広く開放感を感じます。空気清浄器を配置し常に清潔な室内環境に取り組みられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを設置し、利用者様同士がコミュニケーションをとれるよう配慮している。また、一人の時間もとれるよう常に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人様の使い慣れた物やなじみの物を持参して頂き、環境が変わった中でもホッとできる配慮を行っている。また、写真等も貼る場所を設置し、ご本人のお好きな写真を貼って頂き、いつでも見る事が出来るようにしている。	ベットと筆筒は施設で統一された物を使用しています。利用者本人が作成した塗り絵や作品を飾れるよう、利用者と家族・施設で話し合い、その人らしさを大切に居心地の良い居室作りに取り組みられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋でバリアフリー設計しており、居室やトイレが分かり易いように工夫している。また、廊下等には手すりを付け、できるだけ自分で歩行できるよう配慮している。		